

口腔顔面神経機能学会会報第 13 号に誤りがありましたのでお知らせいたします。

下記の後抄録に欠落がありましたので、赤字部分の追加訂正をお願いします。

該当ページ： 8 ページ

演題番号： 5

口腔粘膜感覚閾値を変動させる要因についての検討

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科・顎顔面外科学分野

○ 青柳順也, 小林明子, 望月美江, 天笠光雄

#### 【対象及び方法】

被験者は健常人ボランティア 30 名(男性 15 名・女性 15 名)で、年齢 24 歳～37 歳, 平均年齢 28.5 歳。

測定は同一検者が行った。

60℃の湯による温刺激、4℃の水による冷刺激を行い、舌尖、舌背、頬粘膜の閾値を測定した。さらに刺激後から1分毎に閾値を測定し、閾値が回復するまでの時間を測定した。温覚・冷覚閾値測定には温冷刺激装置(ダイヤモンド社製)、熱痛覚閾値測定には痛覚計(ユニークメディカル社製)、粘膜表面温度の測定には熱電対式温度計測器(安立計器社製)と痛覚計を用い、触覚閾値測定には SW 知覚テスターを使用し、便宜的にフィラメントを 1～20 までの番号とし統計処理を行った。検定方法は Scheffe's test および Friedman test を用いた。

この度、関係者各位にご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げます。

後抄録の提出をメールのみで行っていたため、どの段階で欠落が起きたのか検証できません。

今後、このようなことが発生しないように注意します。

このために、第 14 回以降の学術大会では、プリントアウトした後抄録の提出をお願いいたします。

口腔顔面神経機能学会事務局